

FACULTY OF LETTERS

文学部生のリアルな！ 学生生活

Vol. 51

13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。

TAKURA
CHIKARA

文学部は芸術性で満ちている！

文学部人文社会科学科西洋史学専攻3年 / 私立工学院大学附属高等学校（東京都）出身

たくら ちから
田倉 主税

私は小中学校時代、生粋のゲーム少年

であった。そのために視力の著しい低下も経験した。しかし、私が中大の文学部生として経験していることの起源は、かつて遊んでいたビデオゲームに帰するものである。当時の私が特にのめり込んでいた作品の中に、任天堂の「どうぶつ森」シリーズがある。その魅力の一つは、ゲーム内において家具等を自由にカスタマイズできる自宅の存在である。私は家具の中でも、絵画や彫刻などの美術作品や、楽器や音源などの音楽関連の品を熱心に収集し、部屋に飾っていた。この頃から私は、多様な造形と表現で五感の世界を拡大してくれる美術や音楽といった芸術に、大きな魅力を感じていた。

高校生の時には、まるで物語のように進んでいく世界史に惹かれた。そして、芸術好きが転じて、ヨーロッパの文化史に興味を持った。大学では文化の側面から歴史をより深く学びたいと考え、圧倒的に充実した施設を有する中央大学多摩キャンパスの文学部・西洋史学専攻に入学した。それからの私の学生生活は、芸術で

満ちていると表現しても過言ではない。

その根拠の一つは、学芸員の資格課程である。学芸員とは、博物館における資料の収集・保管・展示に重要な役割を果たす専門職員である。学芸員資格課程では、実務経験のある教員による講義を通して、博物館の基礎知識から、実務作業の実践体験まで、博物館に関わる幅広い学びが用意されている。私は大学1年生の時にたまたま訪問した恐竜の展覧会をきっかけに、世界中の遺産や芸術品を目の当たりにできる博物館という場所につきつかり没頭するようになった。その博物館について学べるというのだから、学芸員課程を履修しないという選択肢は、私にはなかった。同課程ではその集大成として、3年次に実際の博物館での館園実習を行う。私は東京都・新宿区にある民音音楽博物館にて実習を行った。同館は、楽器をはじめとする多様な音楽資料を所蔵する音楽博物館である。実習の中で特に印象に残っているのは、ほかの実習生と共同で行った、音楽資料としての楽器を用いた展示創設作業である。展示の主題

を決め、それに沿って選んだ楽器が最も効果的に展示されるように工夫するという作業は、大学で学んだ知識や技術を実社会に応用する貴重な経験となった。

中央大学文学部の芸術性は、普段の講義にも見られる。たとえば、私がかつて履修した演習型講義「ミュージアムと社会」では、履修生が、国内外の博物館に関わる社会問題について、個人およびグループで、調査・考察・発表を行う。その問題とは、政治・思想・歴史・教育、ジェンダー、お金、マイノリティの包摂、多文化共生、脱植民地主義などである。私はこの講義の個人発表において、文化財返還問題を扱った。同問題は、植民地時代などに不当に略奪された文化財を本来の場所へ返還する動きである。私は、発表のために文献等を調査するうちに、文化財返還問題を卒業論文の研究テーマにしたいと考えるようになった。

この文化財返還問題を調査するため、私は3年次の夏休みにイギリスへ渡航した。初めてのひとり海外である。対象地域にイギリスを選んだ理由は、文化財返



1 館園実習で創設した「楽器の裏」展 2 イギリスにあるロゼッタストーン
3 白門祭に向けた試作会 4 学外の楽団ではチューバを担当

還問題を捉える時に最もよく話題とされる大英博物館がイギリスに所在しているからである。渡英に際しては、文学部の学外活動応援奨学金を利用した。円安とウクライナ戦争によって燃料費等が高騰する中、同奨学金は、活動実現のための大きな助力となった。私は現地で、大英博物館をはじめとするいくつかの博物館を訪問し、展示状況の調査活動を行った。その結果、文化財返還問題の展示について、植民地主義などのより大きな問題に内包されがちな傾向や、各館の展示意欲に明確な濃淡がみられることがわかった。

中央大学の芸術性は、サークル活動にも反映されている。私は、料理はまさに芸術だと考えている。手を動かし、芸術作品としての絵画や彫刻等を制作するという流れは、さまざまな材料を掛け合わせ、おいしくて美しい料理を作るという流れと、ちょうど一致するだろう。従ってここでは、私が所属している製菓研究会「銀月」に注目する。銀月は、月に2回、市民センターの調理室での活動日を設け、希望者が参加し、お菓子や料理を作るサークルである。白門祭では、集大成としてオリジナルケーキを販売した。今年は、コロナ禍以降初となるカフェ形式で、バスタチースケーキや紅茶のアップルタルトなどを提供した。大盛況では

文学部だより

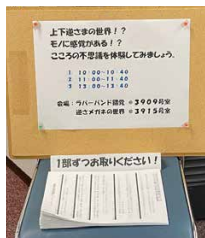
対面で会える場として

「わーすごい、面白い」高校生の欢声が聞こえます。心理学専攻では、特別公開講座や施設見学会の研究室ツアーで「こころの不思議を体験してみましょう」(写真参照)ということで、逆さメガネ(上下が逆に見える眼鏡)をかけて的当てゲームや、マネキンの偽物の手を自分の手のように錯覚するラバーハンド錯覚など、認知心理学の簡単な実験を体験してもらっています。大学に入学すると、面白かった体験を「なぜそのような現象が起きるのか」論理的に学問として学んでいきます。心理学専攻には7名の教員がおり、認知心理学のほか、臨床心理学、発達心理学、神経心理学などの分野を学ぶことができます。3年生でゼミに配属されると、それぞれの分野について専門的に学び、4年生で集大成として卒論を執筆します。心理学研究室には、心理学に関する図書や雑誌が約2万冊あり、必要な資料をすぐに手に取ることができます。雑誌論文を読むことが重要ですので、購入している雑誌のタイトル数が多いのが特徴です。閲覧スペースでは通常程

度の会話は許可されていますので、苦手なことやわからないことがあっても協力し合って解決することができます。

2020年に新型コロナウイルスの感染が拡大し始め、4月からは学内への入構が制限されて授業もオンラインになりました。対面授業が再開された時は学生同士がうまくコミュニケーションを取れるか少し心配しましたが、時々Zoomなどのオンラインで集まっていたようで、そのまま抵抗なく対面でのコミュニケーションにつながったようです。デジタルネイティブ世代の柔軟性に感心しました。これからはオンラインの良い所を利用しつつ、対面で会うことができる場として心理学研究室を利用してもらえたらと思っています。2020年度に入学した学年が今年の3月に卒業になります。皆さんの柔軟性を生かして新しいことに挑戦していきましょう。

文学部事務室 にしまき
(心理学研究室) 西牧 あかね



あったものの、制約の多い条件下でのケーキ製作は、その完成数を大きく制限した。そのため、すぐに完売し、来店しただけだったお客さまに何も提供できないという状況が生じてしまった。来年度以降は、一つでも多くのケーキを製作・提供できるよう、運営のさらなる効率化

が課題として残された。今年度をもって銀月を引退した私にとって、来年度の大きなイベントといえば、卒業論文、就職活動、教育実習、所属楽団の演奏会である。どれに向き合う際にも、文学部で獲得した経験を常に活用しながら取り組んでいきたい。